

演題「幼児期の教育～遊んで大きく育つ～」

6月13日、教育創造コース2年生は、香川大学教育学部の片岡元子先生によるご講義「**幼児期の教育～遊んで大きく育つ～**」を受講しました。



前日に附属幼稚園で園児との交流活動を体験したところだったので、まずはその活動をゆっくりと振り返りました。

その後、幼児期の教育、中でも遊びを通した幼児の成長をどのようにとらえるか、人的環境としての保育者にはどのような役割があるか、などについて考えを深める時間になりました。

【生徒の感想】

- ★遊ぶことに幼児の成長や発達にとって重要な体験が多く含まれていることを知り、驚きました。
- ★遊びの本質とは、成果を出すといった目的があるわけではなく、遊ぶことが目的だという考え方に気づきました。
- ★幼児期の記憶は意外と鮮明なもの。人間の土台となる時期に人間性や社会性を学習することは、生きていくうえで一番大事なことだと思った。
- ★次に幼稚園に行くときには、子どもたちの「やってみたい」を引き出せるような声かけができるようになりたい。

